

令和4年度事業報告

《概況》

新型コロナの感染拡大により制限されていた活動が、3年ぶりに各地で再開された。参加人数を制限したりソーシャルディスタンスをとるなど、感染対策を十分に行い、配慮と工夫をこらして活動が進められた。一方でこの3年のブランクは、実施する方々の心理面にも、運営面にも影響を与えており、以前よりも準備等が大変に感じたとの声もあがっていたが、当該年度の再スタートを今後につなげるべく中央本部では情報提供に努めた。

さらに中央本部では、コロナ禍を乗り切るため、32道府県本部（県下の市町村支部含む）の活動をより広く発信しようと、中央本部公式サイト内に地方組織の活動紹介ページを立ち上げたり、全国表彰式に参加できない入賞・入選者及び家族向けにYouTubeで式典の様態を配信した。

コロナによる弊害はあったが、新しい視点での事業展開をスタートすることで、運動を広げるための情報発信へと踏み出すことができたことは有意義であった。

なお、会員数に関しては、会員の高齢化や長引く感染症の影響等から経済状況が厳しい状態となった個人会員、地方賛助会員からの退会の申し出が増加した。現在の会員数は145,409名（内訳：個人正会員93名、個人寄附会員20名、法人正会員30法人、法人寄附会員18法人、個人会員638名、地方賛助会員6,224名、団体会員91,153名、学校会員47,220名）。

【運動方針】 日本の美風の「蘇生」と「新生」

【重点活動】 会員拡大
「心のワクチン」運動

【スローガン】 できる親切はみんなでしょう、それが命を守る力となるように

公益目的事業 1 「小さな親切」運動を通じて国民の心身の健全な発達と豊かな人間性を涵養

1. 「小さな親切」実行章贈呈事業

○ 令和4年度受章事由の傾向など

- ・ 全国的に、実行者の年齢にかかわらず、高齢者の保護や道路での急病人、けが人の救護といった事例が目立った。特に、車や自転車の走行中に発見して心配になり、降車して声をかける、といった積極的な声かけによる事例が増えている。
- ・ 一方で、地域清掃や子どもの見守りなど、日常生活での思いやり活動の推薦も多く寄せられた。
- ・ 新規の推薦者も増加。過去の受章者や元警察官などこれまでに接点のあった方々や、あいさつ運動を実施する小学校からも推薦が寄せられるなど、継続は力なりを実感した。

○ 令和4年度受章者数 28,393名

年度	団体		個人
	団体数	人数	
令和4年度	266	24,526	3,867
参考(令和3年度)	339	65,949	3,841

- ・ 子どもの受章者が減少し、個人受章者数が激減。全国的に少子化が進み、児童数が減少した学校からの推薦人数が減っていることに加え、学校の統廃合が加速していることが要因と考えられる。
- ・ 昨年度は、所属人数の多い団体の受章により団体受章者数が大幅に増加したが、当該年度はそうした事案がほとんどなかったため、受章者総数も減少となった。

○ 実行章贈呈者数累計 6,097,850 名

- ・ 昨年度、累計受章者が 600 万人に到達。毎月、全国からコンスタントに推薦が寄せられていることから、創立 60 周年を迎える令和 5 年度には、累計受章者 610 万人到達が見込まれる。

○ 実行章贈呈式

- ・ 中央本部では十分に感染症対策を講じた上で、大学や企業など 1 個人 3 団体に、代表、副代表が訪問して表彰を行い、その様子を情報誌や SNS で紹介した。
- ・ 昨年度に比べ、コロナ禍で中止していた贈呈式を再開した県本部・支部が増加。参加人数を限定するなど、感染状況に応じて様式を変更した組織も多数あった。
- ・ カンボジアの支援活動をしている特任推進委員から、現地の方の推薦が寄せられた。実行章の贈呈はカンボジアで行われ、日本の親切運動を紹介した。

○ 実行章バッジの販売

価 格： 1 個 150 円（税込・送料別）

販 売 数：1,412 個

※参考 令和 3 年度実績 1,189 個

おもな購入者：8 県本部・11 支部・学校、受章者本人など

2. 第 4 7 回「小さな親切」作文コンクール

○ 応募総数 33,857 編（前年度より 6,708 編減）

内 訳：小学生 710 校 8,193 編 ・ 中学生 633 校 25,664 編

※昨年度はほぼコロナ前の水準に戻ったものの、再び応募数が減少。学校教諭などにヒアリングをしたところ、今夏の感染症の拡大・学級閉鎖により、授業時間を確保するため夏休みを短縮する学校が多く、夏休みの課題自体を減らしたところが多かったのではないかと意見があった。また、コンクール系の課題については、複数あるコンクールから児童生徒の選択制としている学校が多く、応募が分散していることも減少要因にあげられる。

○ 応募作品の傾向

【コロナ関連】

- ・ 昨年度までは感染症に対する恐怖、通常の生活が送れないことへの不安や焦り、「コロナ差別」や「自粛警察」など社会問題に対する批判などの内容が多かったが、今年度の大きな特徴は、自分や家族が感染症に罹患した体験を書いたものが圧倒的多数だった。
- ・ 感染した体験を書いた作文には、はじめは友達に差別や偏見を受けるのではないかとどの恐れを抱くものの、実際には学校を休んでいる間に友達が元気づける連絡をくれたり、登校した際には温かく迎えてくれて安堵するといった内容が多くみられた。
- ・ また感染者が出た家庭に、お弁当や日用品を差し入れするなど、ご近所さん同士が支え合う様子も多く描かれていた。
- ・ 誰がいつ感染するかわからない状況は不安ではあるものの、特別なことではなくなり、「お互い様」と助け合う意識が芽生えていることが感じられた。
- ・ 人と触れ合う機会が減っているため、昨年に引き続き、家族、地域の方など、身近な人との心の交流を描いた作文が多かった。さらに当該年度は、実際に会ってなくても、公園清掃、花壇の手入れなど、地域のために働く人がいることを感じとり、感謝の気持ちを持つとともに、自ら地域の環境美化活動に参加するなど、その後の行動につながっている作文も多く、「地域の大人」の行動が子どもたちに与える影響の大きさが感じられた。

【その他】

- ・ ロシアのウクライナ侵攻の影響で、一人ひとりが親切や思いやりの心を持つことが戦争を防ぎ、世界平和につながるとまとめているものが散見された。また、数は少ないがウクライナからの避難児童との交流や、過去にロシアに住んでいた際の体験を綴ったものもあった。
- ・ 目の不自由な方や車いすの方が困っている様子を見かけた際、戸惑うことなく「お手伝いしましょうか？」と声をかける児童生徒の作文が近年増加しており、学校や地域での体験学習の効果が感じられた。

○ 特別テーマの設定

- ・ ウィズコロナ時代の親切のあり方、思いやりの大切さについて考えてもらいたいと、特別テーマ「思いやりは心のワクチン」を設定。新型コロナ関連以外の親切体験を綴った作文にも、親切や思いやりと同じ意味で「心のワクチン」の言葉を使っている作文が多く、子どもたちにとってはイメージしやすいテーマだったのではないかと考えられる。

○ 入賞・入選作品の発表

- ・ 作品集には、上位 30 作品を収録。入選 100 名は氏名紹介のみとなることから、中央本部 WEB サイトに全入賞・入選作品を令和 5 年 1 月～2 月にかけて定期的にアップロードした。

〔実施概要〕

後 援：内閣府 文部科学省 NHK 毎日新聞

テ ー マ：小さな親切

特別テーマ：思いやりは心のワクチン

応募資格：小学生・中学生（小・中学生と同じ学齢のものを含む）

応募方法：1）400字詰原稿用紙3枚以内（本文のみで1,200字）

2）地域組織・学校でとりまとめる場合は、必ず選考を行う

副 賞：上位賞／メダル・電子辞書 or 腕時計（G-Shock） or 電波時計・文房具
入 選／メダル・電波時計・文房具

締め切り：9月22日（木）必着

審 査：第1次審査：9月26日（月）～10月3日（月）※平日のみ
第2次審査：10月10日（月）

最終審査会：10月25日（火）

審査委員5名（内閣府大臣官房総務課管理室長ほか）

入賞・入選者数：130名 内訳／大臣賞2名・運動本部賞2名・特別優秀賞6名
優秀賞20名・入選100名

要項・入賞発表：毎日新聞／5月20日（金） ・ 11月16日（水）

教育新聞／6月27日（月） ・ 12月12日（月）

中央運動本部 WEB サイト

表 彰 式：令和4年11月25日（金） 全国表彰式席上

※式典の参加案内は上位賞30名のみ。

入選者の賞状及び副賞は、各学校または地域組織より伝達した。

3. 青少年すこやか育成事業

○「心のワクチン」運動 授業の実施

- ・ 「心のワクチン」運動の一環として作成した教育プログラムを用いて、小学校で道徳のモデル授業を実施。当該年度では、初めて東京都以外の小学校（静岡県内）で授業を行った。

講 師 馬場喜久雄氏（全国小学校道徳教育研究会 顧問）

実施校 3校

令和4年 9月5日（月） 東京都大田区立都南小学校

参加者：5年生35名・6年生28名

10月13日（木） 東京都板橋区立板橋第四小学校

参加者：5年生25名・6年生33名

12月12日（月） 静岡県藤枝市立稲葉小学校

参加者：1年生26名

- 青少年教育専用 WEB サイト「てらこあん」を通じた教育活動
 - ・ これまで実施してきた小学校道徳授業のレポート、また教育プログラムを教育関係者向けに継続して提供。

4. みんなつながる、トモダチ作戦

○ 新たなグッズの作製と提供

創立 60 周年を迎える令和 5 年度には、当該活動を始めて 10 周年となることから、活動グッズのデザインを一新。あいさつをすることで、友達や地域の人との距離を縮め、自分の世界を広げてほしいとの願いを込め、『せかいがひろがるトモダチ作戦』のキャッチコピーを入れ、SDGs に貢献できる取り組みであることも PR するため「地球」をイメージしてデザインした。4 月までは従来のグッズを配布し、6 月より新デザインのグッズに切り替えて提供を行った。

○ あいさつ推進グッズの提供数

提供団体：86 団体

(内訳：従来デザイン提供 17 団体 新デザイン提供 69 団体)

配布物：のぼり 417 枚・たすき 1,816 枚・ポスター 2 種 838 枚

(内訳：従来デザイン のぼり 66 枚・たすき 490 枚・ポスター 2 種 184 枚

新デザイン のぼり 351 枚・たすき 1,326 枚・ポスター 2 種 654 枚)

※1 団体につき、のぼり 3 枚、たすき 10 枚、ポスター 4 枚 (但し、規模の大きな学校から、1 団体あたりの配布数を超える要望がきた場合は、基本的に応じる)。

※非会員校には送料 700 円を負担してもらう。



新デザインのグッズ

○ 提供先について

- ・ 地域組織や会員を通じて、主に地域の小中学校、地域団体、実行章を受章した学校などに提供した。
- ・ 上記以外では、幼稚園、企業や自治会などに提供。コミュニケーションの活性化のため、活用されている。

○ 活動事例の紹介

- ・ 情報誌『小さな親切』に掲載
- ・ 春号 (No.526) 山陰本部の取り組み / あいさつ運動推進校へのグッズ伝達
- ・ 秋号 (No.528) 北海道岩見沢市内の小学校 / 共通の啓発ポスター作製

5. ことばの魔法プロジェクト

第38回「小さな親切」はがきキャンペーン

○ 応募作品の傾向

- ・ 全体的に、身近にある出来事を綴った作品が多くを占めた。作品募集期間中は、コロナウイルスの感染再拡大などで行動制限も残っていたせいも、「特別な出来事」ではなく、「ふつうの日常生活」に着眼した内容が多かった。
- ・ 昨年までは、「新型コロナウイルス」という未知の脅威に対し、感染への恐怖や先行きの見えない不安などを抱く作品が寄せられていたが、コロナ禍の期間が長くなったことから、自身が罹患した、あるいは濃厚接触者だった、身近に同様の人がいたことなどが、「特別なことでなく、当たり前のこと」として書かれていた。
- ・ 一方で、当該年度は街中での出来事を綴る作品もわずかながら増え、感染症の存在が当たり前になりつつあり、外出機会も徐々に増えてきていることがうかがえた。

○ 応募総数 1,730 編

- ・ 長年にわたり、新聞、雑誌、WEB 等に告知を掲載した成果が表れ、今年度は一般の応募数が増加。一方で、団体応募が主である会員の応募数が減少したため、全体的には昨年度比約 98.3%であった。
- ・ 非会員校からの新たな応募が増えたほか、過去に入賞・入選者を輩出した非会員校からの応募も続いている。
- ・ また、海外の日本人学校に通う小学生からも応募が寄せられた。中央本部主催の作文コンクールに応募歴がある学校だったことから、「小さな親切」が周知された結果、今回の応募につながったのではないかと考えられる。

〔実施概要〕

後 援：日本郵便株式会社 読売新聞社

テ ー マ：心から伝えたい“ありがとう”

特別テーマ：思いやりは 心のワクチン

対 象：子どもから大人まで

応募方法：はがき及び専用フォームまたはメールで応募（いずれも 600 字以内）

締め切り：9月7日（水）当日消印有効

審査会：10月7日（金）

審査員 5 名（日本郵便㈱切手・葉書室課長ほか）

入賞・入選者数：24 名 内訳／日本郵便賞 1 名・読売新聞社賞 1 名・河出書房新社賞 1 名

審査員特別賞 1 名・入選 20 名 ※大賞は該当作なしとした

副賞：上位賞 / 切手シート・図書カード・書籍・高級文房具
入選 / 図書カード・文房具
要項・入賞発表：読売新聞 4月19日(火) ・ 11月9日(水)
レターパーク5月号・公募ガイド2022年夏号・登竜門・
情報誌『小さな親切』春号&秋号・本部WEBサイト
表彰式：令和4年11月25日(金) 全国表彰式席上

6. 令和4年度「小さな親切」運動全国表彰式

○ 3年ぶりの開催

- ・ 参加人数を大幅に制限し、さらにソーシャルディスタンスを保つなど感染対策を行った上で、会場を変更して3年ぶりとなる全国表彰式を「ホテルグランドアーク半蔵門」で開催した。
- ・ なお、参加いただけなかった作文コンクール入選者への表彰については、地域組織に協力を依頼して、可能であれば賞状等を伝達いただき、難しい場合はご本人または学校に送付した。

○ YouTube 配信を実施

- ・ 参加できなかった各入賞入選者やその家族、また学校に向けて、YouTube でリアルタイム及びアーカイブ配信を行った。初めての取り組みであったが、視聴した方々からは好評であった。

〔実施要項〕

後援：内閣府 文部科学省 NHK
とき：令和4年11月25日(金) 13:00~14:30
ところ：ホテルグランドアーク半蔵門 華の間
司会：石井麻由子 (NHK 放送研修センター)
プログラム：【表彰】

内閣官房長官賞・「小さな親切」運動大賞・「小さな親切」運動賞
第38回はがきキャンペーン・第47回作文コンクール

【作品朗読】

作文コンクール大臣賞2作品

「小さな親切」運動推進功労者内閣官房長官賞 / 4名

- 1) 安藤 好 (72歳) 山形県 高畠「小さな親切」の会 前副代表
- 2) 伊藤 歳恭 (69歳) 三重県 県本部代表
- 3) 吉田 達雄 (73歳) 福岡県 行橋支部副代表
- 4) 中山 雅和 (60歳) 宮崎県 都城支部副代表

7. 『小さな親切』誌の刊行 <(一財)日本宝くじ協会助成事業>

季刊発行：年4回(春号5月・夏号8月・秋号11月・新春号1月)

発行部数：1回あたり約30,000部 年間延べ120,000部

○ 著名人へのインタビュー

60周年特別インタビューとして、各界の著名人にこれからの親切運動のあり方、今後運動を広く展開するためのヒントなどを提言してもらう記事を掲載。

春号(No.526)：寺島実郎氏 多摩大学学長
夏号(No.527)：小山薫堂氏 放送作家・脚本家
秋号(No.528)：池田宜永氏 宮崎県都城市長
新春号(No.529)：鈴木恒夫氏 公益社団法人「小さな親切」運動本部代表

○ SDGsに関連した活動の紹介

身近な社会貢献に興味を持ってもらうため、地域組織や会員などの「SDGs」に関連する活動を取り上げ紹介する。

春号(No.526)：静岡県本部 /フードドライブの取り組み
夏号(No.527)：神奈川県葉山町 /独自のクリーンプログラム/実行章受章者
秋号(No.528)：京都府本部 /祇園祭でのリユース食器の提供
長野県諏訪総支部 /高山植物の保護活動
新春号(No.529)：日本児童教育専門学校(会員)
/クリーン大作戦と子どもたちへのSDGs啓発活動

8. 地域の輪・和・環プロジェクト <協力：(株)A2Z>

○ 車椅子を斡旋

- ・ 地域組織に自走式車いすを斡旋。購入組織が地域の社会福祉施設等に寄贈した。

〔実施概要〕

実施組織：15県本部 22支部

斡旋数：97台(うちリクライニング4台、シャワーキャリー1台)

種類：①BAL-1(ミキ社製)

自走式/介助ブレーキ(ドラム式)付/背折れタイプ

キャスター6×22インチ/座幅40cm/前座高43.5cm/全長98cm

全幅65cm/全高86.5cm/重量12kg

②プレート サイズ縦4cm×横11cm/白地に黒文字の亚克力製
文字は3段以内で1段の文字数は13文字程度

価格：①車椅子本体 19,000円 /メーカー希望小売価格 69,000円

②プレート 2,000円 /希望組織のみ

※1台につき送料 2,200円

- 展開方法：・4月購入希望（台数及びプレートの有無）のアンケート実施。
・6月に締切り、A2Z（東京都・ピジョンタヒラ代理店）に発注。
・10月1日～11月1日の期間に、A2Zより指定先へ発送。
- 代金請求&入金：中央本部より11月に請求し、12月23日（金）までに入金。

9. 日本列島クリーン大作戦(39回目)

○ 後援省庁を見直し、6省庁へ

これまで、内閣府をはじめとする8省庁の後援を受け展開してきたが、長年活動をする中で、一部後援省庁では後援の経緯を把握していないこと、申請事務手続きが煩雑である、清掃活動は管轄外であるなどという声を受けたことから、後援省庁の見直しを図った。地域組織の意見、事業の活動趣旨を踏まえ、当該年度以降は、農林水産省、経済産業省への後援申請を行わないこととした。

○ 各地の感染状況に応じて活動を再開

新型コロナの感染状況が落ち着きを見せ始め、感染対策が定着したこともあり、クリーン大作戦を再開する動きがみられた。

- ・ いまだ、大規模清掃活動は中止となる地域も多くあるが、受付方法を変更したり、開会式を縮小するなど、運営形態を変更して再開する組織が増加。
- ・ 当該年度は、従来通りの大規模（参加者1,000名以上）活動も複数で行われたが、多くは感染状況が落ち着いた時期に、参加企業の周辺道路や公園、学校周辺での清掃活動を行う中小規模の活動となった。
- ・ また、一部組織では、会員企業・学校に自主的な活動を呼びかけ、JT提供のごみ袋を配布するなど、それぞれの実情に沿った活動への支援を行い、学校や団体から活動報告が寄せられた。
- ・ 実施組織：24組織で、のべ約41,900名が参加（学校、団体単位の参加者含む）。
- ・ 活動実施の場合は、感染症対策を徹底。受付での密集を避け、検温ならびに手指消毒、緊急連絡用名簿の記入を行うほか、活動中はマスク着用を呼びかける、参加者同士の距離を取るなど工夫した。

○ ごみ袋総数 80,000部 / 提供：日本たばこ産業（株）

内訳：可燃・不燃用共通30L：38,700部・手提12L：41,300部

〔実施概要〕

後援：内閣府、文部科学省、総務省、国土交通省、環境省、警察庁

協賛：コカ・コーラ協会、(公社)食品容器環境美化協会、

スチール缶リサイクル協会、(公財)日本環境協会、日本石鹼洗剤工業会

スローガン：美しい日本、美しい心

期間：令和4年4月1日（木）～令和5年2月28日（火）

10. 日本列島コスモス作戦（34回目） <協力：タキイ種苗(株)>

○ 種子の斡旋

コスモス種子袋及び種子（dl・L）、ミニヒマワリ種子袋、ヒマワリ種子袋の斡旋。

〔実施概要〕

発注数：	●コスモス種子袋	27,590 袋
	種子（dl・L）	77dl ・ 25L
	●ミニヒマワリ種子袋	49,955 袋
	●ヒマワリ種子袋	2,935 袋
価格（税込）：	①コスモス種子袋	1 袋 15 円
	②ミニヒマワリ種子袋	1 袋 17 円
	③ヒマワリ種子袋	1 袋 15 円
	④コスモス種子	1dl 550 円 ・ 1L 5,445 円

発送：4月中旬

代金請求と入金：中央本部から4月に請求し、5月末日までに入金

11. 使用済み切手等寄贈

○ 使用済切手等の寄贈

- ・ 個人、企業、学校等から寄せられる切手等については中央本部で取りまとめ、寄贈先へ送付。地域組織が取りまとめたものは、基本的に海外支援団体に直接送付してもらった。
- ・ 当該年度は、例年に比べ寄贈者が増加（コロナ前の約1.2倍）。「これまで送付していた団体が受け入れを取りやめてしまった」ことから、中央本部宛に送ってきた寄贈者が多く見られた。
- ・ コロナ禍の影響により受け入れを休止していた（公社）日本キリスト教海外医療協力会が、11月より受け入れを再開。
- ・ これまで使用済みプリペイドカード類を送付していたNPO法人日本国際ボランティアセンターが、令和3年8月でカード類受付を終了したため、新たに（公財）ケア・インターナショナル ジャパンを寄贈先に追加した。
- ・ 寄贈先 使用済み切手：（公財）緑の地球防衛基金

（公社）日本キリスト教海外医療協力会

NPO 法人日本国際ボランティアセンター

使用済みプリペイドカード：

（公財）ケア・インターナショナル ジャパン

○ 使用済みプリペイドカードの収集対象について

使用済みプリペイドカード類の送付先変更に伴い、対象となるカード類も一部変更。

対象となる使用済みプリペイドカード：図書カード、テレホンカード、オレンジカード

○ 収集・寄贈数量

- ・ 使用済み切手 404.83 kg
 - ・ 使用済みプリペイドカード 814 枚 (合計 40 万 6,000 円相当)
- (静岡、奈良、山陰、山口、香川、愛媛、鹿児島各県本部収集・寄贈分を含む)

○ 協力者氏名をホームページに掲載

内訳／地域組織 8 件・企業 44 件・団体 10 件・個人 32 件・匿名 21 件
 ／中央本部に寄せられたのべ数

地域組織（県本部・支部）					
宮城県	宮城県本部	山形県	酒田の会	山形県	十和田支部
山口県	山口県本部	熊本県	熊本県本部		
企業・団体					
北海道	(株)インテリアプロダクト	青森県	共同企業体 エコプラザ八戸	青森県	(有)ポライト
群馬県	(福)群馬県社会福祉事業団 研修センター	埼玉県	八十二銀行 熊谷支店	千葉県	新日本メンテナンス(株)
東京都	伊吹工業(株) 東京営業所	東京都	(株)NIPPO 東京東出張所	東京都	(株)大矢建工
東京都	(株)メディカル・プラネット	東京都	三省堂印刷(株)	東京都	セメダイン(株)
東京都	滝沢ハム(株) 首都圏販売課	東京都	晴海レミコン輸送(株)	東京都	(一社)実践倫理宏正会
神奈川県	(株)丸産技研	神奈川県	桔梗屋紙商事(株)	石川県	タマダ(株)
静岡県	朝日新聞静岡総局	静岡県	共和食品(株)	静岡県	損保保険ジャパン(株) 静岡支店
静岡県	富士カプセル(株)	静岡県	静岡県西部出納室	三重県	ホテル 花水木
京都府	(株)美也古商会	京都府	中央技研(株)	大阪府	ケイタクス会計事務所
大阪府	大協肥糧(株)	大阪府	安藤忠雄建築研究所	大阪府	(医)仙養会 北摂総合病院
奈良県	(福)佐保会 鹿ノ台佐保保育園	鳥取県	三朝温泉 三朝館	島根県	(有)夢工房
岡山県	タチバナ工業(株) 中国支店	岡山県	水島商運(株)	岡山県	(有)岡建
広島県	(株)熊平製作所	香川県	(株)エムアイフーズスタイル 高松	愛媛県	大和ハウス工業(株) 愛媛支店
福岡県	(株)ドーワテクノス 九州支店福岡営業部	福岡県	西日本写真協会	熊本県	(株)鶴屋百貨店
鹿児島県	(株)朋友	沖縄県	(有)三光電気		
個人					

宮城県1名、福島県1名、群馬県1名、埼玉県2名、千葉県1名、東京都4名、神奈川県3名、長野県1名、静岡県1名、三重県1名、大阪府3名、奈良県2名、愛媛県1名、福岡県1名、鹿児島県2名、匿名21件

12. その他

○ 各地域の親切運動支援

1) 地方活動助成費の交付

総 額：7,314,000 円 / 6 月交付令和・令和3 年度会費収入の 12%

2) 全国地方本部事務局長会議（対面及びオンライン）

と き：令和5 年2 月10 日（金） 13:00 ～ 15:30

- 3) 地域組織の各種会合への講師派遣、会議、会合等への出席
 講師派遣 2回 会合等への出席 3回

○ 各種パンフレット、ポスター等の作製

- 1) 基本資料 / 基本パンフレット・三つ折りしおり・八か条カード・
 実行章パンフレット・八か条ポスター・
 「小さな親切」運動イメージポスター

※三つ折りしおりは、「小さな親切」運動がSDGsに貢献できる活動であることがわかる
 内容にリニューアル。

- 2) 法人会員楯、会員バッジなど

収 益 事 業

1. はがきキャンペーン作品の書籍化

当該年度は書籍化なし。

2. 「小さな親切」運動グッズの販売

創立60周年記念として、一筆箋3種（小さなしんせつレター2柄、花束レター）、エコバッグを新たに作製した。

〔作 製 物〕

小さなしんせつレター（2柄）	@450円	（地域組織販売価格@350円）
花束レター	@500円	（ ” @400円）
エコバッグ	@600円	（ ” @500円）
ボールペン	@100円	（ ” @60円）
クリアファイル	@50円	
マスクケース	@400円	（ ” @350円）

※会員には割引を行い、会員特典を設定した。

※クリアファイルは、地域組織には県本部3箱、支部1箱の上限を設けて無料提供。（送料1箱550円は組織負担）。上限を超えた場合は上記価格で販売。

〔販 売 数〕

小さなしんせつレター（2種）	1,027冊	359,450円
花束レター	106冊	42,400円
エコバッグ	437枚	218,900円
ボールペン	3,200本	193,800円
クリアファイル（無料提供分除く）	2,155枚	97,175円
マスクケース	5枚	1,750円

3. 作品集の販売

○ 作品集 / 作文コンクール&はがきキャンペーン合併版

タイトル：『いいね！アタリマエ』

作成数：2,500部

価格・販売数：@500円（地域組織・会員割引：10冊以上購入で30%OFF）

発行日：令和5年2月15日（水）

その他事業

1. 総会・理事会

1) 第12回社員総会

令和4年6月17日(金) 14:00~15:20 / ベルサール飯田橋駅前

2) 理事会 4回開催

第49回(5/20)・第50回(6/17)・第51回(9/22)・第52回(翌年3/10)

2. 「小さな親切」運動本部特任推進委員の委嘱

1) 氣田 直樹(けた なおき) / 青森県本部前事務局長

2) 久畷 博久(くしま ひろひさ) / 福井県本部前事務局長

3. エコキャップ収集運動

地域組織の自主事業として、京都府本部、山陰本部、山口県本部、香川県本部が実施。

4. 心の国際交流

地域組織の自主事業として展開。

広報活動

1. WEBサイトによる情報発信

公式WEBサイト、Facebook等を通じて、実行章ほか各事業の活動状況を広く発信した。地域組織情報発信ページも立ち上げ、県本部はもちろん、支部情報を随時発信する仕組みを整えた。

2. 感染症対策情報等の提供

(一社) 感染症対策コミュニケーションラボの協力を得て、「心のワクチン運動」として、感染症対策に関する正しい知識と、差別や偏見のない思いやりの行動の大切さを広く社会に発信。具体的には、情報誌、WEB サイトにて新型コロナ対策の情報提供を行うと共に、差別や偏見を防ぐ小学生向け教育プログラムを開発して、都内及び静岡県の小学校でモデル授業を実施した（詳細は「3. 青少年すこやか育成事業」参照）。

○ 冊子『思いやりの感染症対策』発行

- ・ 今後、家庭や学校、子どもたちに、しっかりとした感染症対策を身に付けてもらうためには、医学的な正しい知識と、他者への思いやりの心の両面が欠かせないことから、これらを啓発する冊子を作製。対策の基礎知識と共に、巻末には作文コンクール、はがきキャンペーン応募作品の傾向から見た“みんなのコロナ禍”を時系列で掲載した。監修は、国や都のアドバイザーボードメンバーでもある中島一敏氏（大東文化大学教授）。
- ・ 冊子は、会員、学校等に配布するほか、イベント等での活用を広く呼びかける。また、WEB サイトの「心のワクチン運動」ページにもアップし、広く提供する。

寄 附

金 額 710,507 円
寄附者 38 件（匿名含む）

見舞金

見舞金の呼びかけなし。